

学び合いを通して、運動する喜びを 実感できる児童の育成 ～小規模校における異年齢集団の取組～

全校児童(生徒)数	14名(男子4名 女子10名)		
全クラス数	3	教職員数	6
運動部活動数		運動部活動参加率	

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

児童の新体力テストの結果は概ね県平均以上ではあるものの、運動領域・種目によって得手不得手がある。さらに、運動習慣の二極化が進んでいる。

また、本校は小規模校であり、人数の少なさを補うために異年齢合同での体育の授業を行っている。その中で、全学年を見通した系統的な指導ができていないこと、主体的・対話的で深い学びが不十分であることなどが課題であった。

2 取組の目的

- (1) 教科体育で学び合いを通じた授業改善を行い、3つの資質・能力を育成して運動する喜びを実感させる。
- (2) 教科外体育で多様な運動機会を確保して体力を向上させ、運動する喜びを実感させる。
- (3) 家庭や地域と連携し、生活・運動習慣を改善して運動に慣れ親しませ、運動する喜びを実感させる。

取組の内容

1 教科体育での取組

- (1) 段階的な単元構成の設定
児童が興味をもち、楽しみながら学習できるように単元のゴールを設定した。そのゴールに向け、スモールステップで力を習得できるように構成した。
- (2) 一単位時間の指導過程の工夫
児童が見通しをもって主体的に学習できるように、一単位時間の指導過程をそらえた。また、基礎的技術の確実な定着のために「慣れの運動」を工夫した。
- (3) めあてとまとめの言語化
板書、体育カードを活用して、全体のめあてや個人の課題設定、まとめと振り返りを言語化した。
- (4) 学び合いの場の設定と教具の工夫
アドバイスタイムや作戦タイムの設定、ヒントカードや掲示物、タブレット等の活用を通して、主体的で効果的な学び合いができるようにした。

2 教科外体育での取組

- (1) 児童会主体の遊びを通じた体力づくり
児童会が中心となり、毎週金曜日の昼休みに全校児童で多様な遊びに取り組んだ。
- (2) 仲良し体育における運動遊びや運動の充実
朝活動の時間を利用して、リズムダンスや鬼遊び、ACP運動など多様な運動を経験させた。
- (3) 一校一運動を通じた体力づくり
毎朝10分間のランニングと、昼休みを利用して長縄エイトマンに取り組み、体力向上を図った。

- (4) 仲良し保健や学級活動における保健指導の充実
月に1回、朝活動の時間や学級活動で、その時期の保健目標や実態に合った保健指導を行った。

3 家庭・地域との連携

- (1) 地域人材の活用
保護者や地域人材に依頼し、サッカー、マリンスポーツの指導をしていただいた。
- (2) 地域のスポーツクラブからの講師招聘
ゲストティーチャーとして器械運動の授業に入ってもらい、模範演技や個別指導をしていただいた。
- (3) 健康生活リズムチェックを通じた、調査・統計と生活の見直し
月に1回、起床時刻や就寝時刻、歯みがきや朝食、運動時間などのチェックを各家庭で行い、集計して生活習慣改善に役立てている。
- (4) 家庭への運動習慣の啓発
学校保健委員会、学級PTA等で、新体力テストの個表返却、体力アップ作戦の目標設定、運動経験の重要性など、話し合う機会をもっている。

●工夫したこと

- ① 教科体育では、異年齢集団での体育を成立させるために教職員全員で系統性を確認し、各発達段階における目標や評価について共通理解した。また、各発達段階に応じた学習カードと掲示物を工夫して作成した。
- ② 単元に合わせた「慣れの運動」を検討し、テンポよく楽しく行いながら、運動への苦手意識や恐怖心を払拭して積極的に運動に取り組めるようにした。

取組の成果

- ① 「体育の学習が好き」と答える児童が75%から100%に上昇した。また、80%以上の児童が「運動することはとても楽しい」と答え、取組を通して運動する喜びを実感できたことが分かる。さらに、新体力テストの個人評価も、80%の児童がA・B評価であった。
- ② 異年齢集団での学び合いが、課題解決に大きな成果をあげた。また、異年齢の児童同士で運動に慣れ親しむようになり、良好な人間関係の構築にもつながった。

今後の課題

- ① 今後もより効果的な学び合いのための手立てが必要である。また、学び合いが上手いかないときの教師の手立てをさらに検討していく。
- ② 家庭への、運動の習慣化の啓発を行っていく。
- ③ 異年齢集団での体育の評価の在り方について、より研究を進めなければならない。

1 教科体育での取組



- ★マット運動 学習の進め方★
- ① 整列・あいさつ
 - ② 準備運動・慣れの運動
 - ③ めあてと学習の流れを決める。
 - ④ レベルアップステージ
「今できる技をより美しくやるにはどうすればいいのかな？」
 - ⑤ チャレンジステージ
「新しい技にチャレンジしよう！どんなところがむずかしいのかな？」
「運動にチャレンジしよう！どんな難関を克服しようかな？」
 - ⑥ 整理運動
 - ⑦ 学習カード記入・まとめ
 - ⑧ あいさつ

器械運動では学習発表会を単元のゴールにする等、児童の意欲を高める単元構成にし、一単位時間の指導過程をそらえた。また、めあてとまとめ、振り返りについてはカードに記入させ、言語化した。



作戦ボードを用いた作戦タイムや、タブレットや掲示物を活用しながら行うアドバイスタイムなど、様々な形での学び合いを意図的に設定し、それが課題解決に有効であった。

2 教科外体育での取組



毎朝10分間のランニングや、昼休みを活用した長縄エイトマンに取り組んでいる。また、朝活動の時間を利用して、多種多様な運動を経験させることで、児童は運動が好きになった。

3 家庭・地域との連携



スポーツクラブからゲストティーチャーに来ていただき、模範演技や発達段階に応じた個別指導を行っていただいた。また、家庭での運動習慣の確立や新体力テストの補助など家庭と連携した。